

取扱説明書

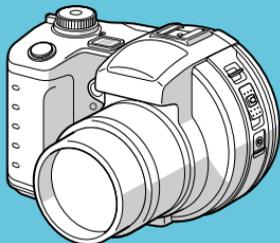
CDマビカ基本編



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「CDマビカ応用編/困ったときは」
「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



MVC-CD500

© 2003 Sony Corporation

CD Mavica



準備する 

静止画を撮る 

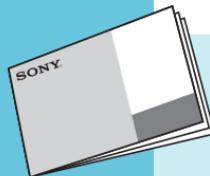
静止画を見る 

静止画を削除する 

静止画を 

パソコンに取り込む

索引 



別冊の
「CDマビカ応用編/
困ったときは」もご覧ください。

こんなことができます

静止画を撮る

→ 21～30ページ



静止画を見る

→ 31～33ページ

液晶画面で見る

→ 31～32ページ



テレビで見る

→ 33ページ



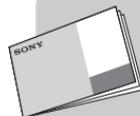
パソコンに取り込んで見る

→ 39～61ページ



Eメールに添付して送る

→ 別冊応用編 25ページ



別冊の
「CDマピカ応用編/
困ったときは」

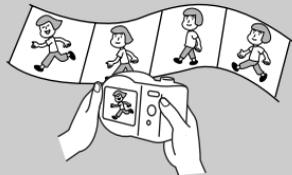
いろいろな静止画の撮影 / 再生 / 編集

→ 8～43、48～53ページ



動画を撮る / 見る

→ 44～47ページ



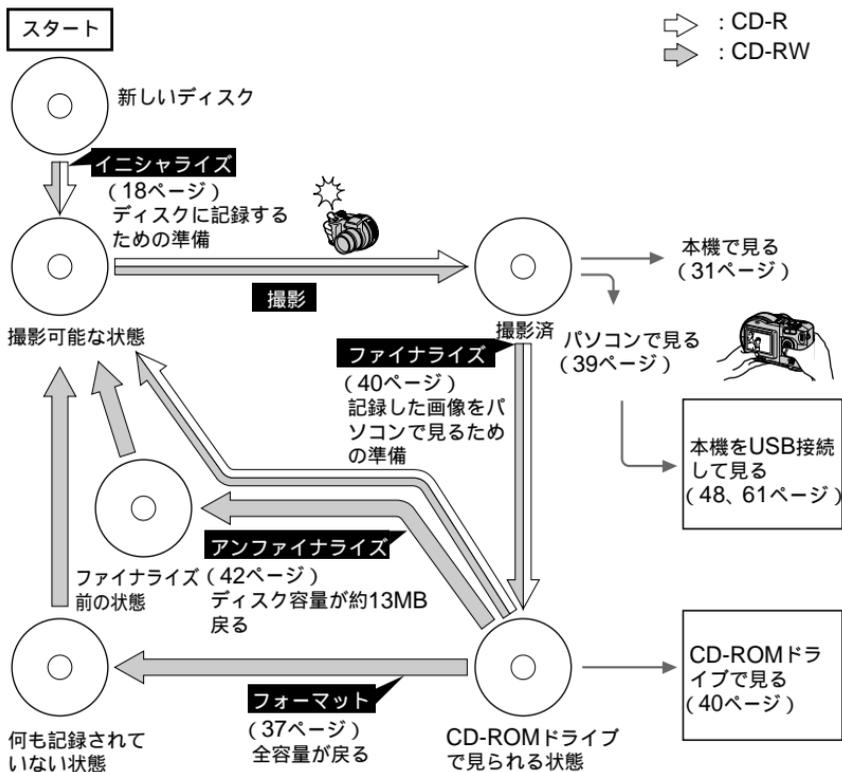
困ったときは

→ 54～67ページ

ディスクに対して必要な操作の流れ図

本機は8cm CD-R/CD-RWに静止画や動画を記録できるデジタルスチルカメラです。

撮影した画像をパソコンに取り込み、パソコンのソフトウェアを使って画像加工をしたり、Eメールに添付したりできます。CD-ROMドライブで直接画像を取り込む場合、ファイナライズ(40ページ)をおこなう必要があります。



目次

こんなことができます	2
お使いになる前に	5
各部のなまえ	8

準備する

バッテリーを充電する	10
外部電源で使う	13
海外で使うときは	13
電源を入れる/切る	14
コントロールボタンについて	14
日付/時刻を合わせる	15

静止画を撮る

ディスクを入れる/取り出す	17
ディスクをイニシャライズする	18
静止画の画像サイズを決める	19
画像サイズと画質について	20
簡単に撮る—オート撮影	21
最後に撮影した画像を確かめる	
—クイックレビュー	23
ズームで撮る	24
近接撮影—マクロ撮影	25
セルフタイマーで撮る	26
フラッシュモードを選ぶ	26
画面上の表示は	29
日付や時刻を入れて撮る	30

静止画を見る

本機の液晶画面で見る	31
テレビで見る	33

静止画を削除する

静止画を削除する	34
CD-RWをフォーマットする	37

静止画をパソコンに取り込む

パソコンで画像を見る—はじめに	39
パソコンのCD-ROMドライブで 見る	40
① ディスクをファイナライズ する	40
ファイナライズを取り消す —アンファイナライズ (CD-RWのみ)	42
② 付属の8cm CDアダプターに ついて	43
③ 画像をパソコンのCD-ROMド ライブで見る	44
画像ファイルの保存先と ファイル名	46

USB接続で画像をパソコンに 取り込む	48
① PTP Managerをインストール する	49
② 本機とパソコンを準備する	53
③ USBケーブルで接続する	54
④ 画像ファイルをパソコンに コピーする	55
PTP Managerが起動しない ときは	57
⑤ パソコンで画像を見る	60
Macintoshをお使いの場合	61
USB接続で見る (Mac OS Xのみ)	61

索引

索引	62
----	----

お使いになる前に

別冊の「CDマビカ応用編 / 困ったときは」について

「CDマビカ応用編」では、静止画の応用的な使いかたや、動画の撮影方法などを説明しています。

また、「困ったときは」(54ページから)では、本機を操作して困ったときの代表的な対処方法を説明しています。

「CDマビカ応用編 / 困ったときは」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「別冊応用編 → ページ番号」のようにご案内しています。

- 本機は8cm CD-R/CD-RWをメディアとして使用するデジタルスチルカメラです。なお、本書では8cm CD-R/CD-RWを総称してディスクと表記しています。特に区別が必要な場合のみ、CD-RまたはCD-RWと表記します。使用できるディスクについては17ページを、ディスクの取り扱い上のご注意については別冊応用編 → 81ページをご覧ください。

- 確実な記録のためには、マビカディスク*の使用をおすすめします。
- データの読み書き中は、ACCESSランプが赤く点滅します。この間は本体に振動や衝撃を与えないでください。

* マビカディスクとは、Mavicaロゴの入った8cm CD-R/CD-RWのことです。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをおとりください。

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system”に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影 / 修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

レーザー安全基準について

この装置は、レーザーに関する安全基準(IEC60825-1)クラス1適合のデジタルスチルカメラです。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本機に振動や衝撃を与えないでください！

誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、ディスクが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。

液晶画面、液晶ファインダー(搭載機種のみ)およびレンズについて

- 液晶画面や液晶ファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が見れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶画面や液晶ファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。

可動式レンズについて

本機は可動式レンズを採用しております。レンズ部をぶついたり、無理な力をかけないようにご注意ください。

フラッシュの表面の汚れは取り除いてご使用ください！

発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、フラッシュが十分な量を発光できない場合があります。

湿気にご注意ください！

雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。結露が起きたときは、結露を取り除いてからご使用ください(別冊応用編 ▶ 80ページ)。

砂やほこりにご注意ください！

砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。

日光および強い光に向けて本機を使用しないでください！

目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因にもなります。

使用する場所について

- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- テレビやラジオ、チューナーの近くで使わないでください。テレビやラジオ、チューナーの雑音が入ることがあります。

カールツァイスレンズ搭載

本機はカールツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスとソニーで共同開発したMTF*測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

モジュレーション トランスファー ファンクション
* Modulation Transfer Functionの略。

コントラストの再現性を表す指標です。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

商標について

- “InfoLITHIUM(インフォリチウム)”はソニー株式会社の商標です。
- MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacintoshおよびMac OSはApple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

各部のなまえ

カッコ内の数字はページ数です。

マイク

POWER ON/OFF (CHG) ^{パワー}スイッチ (14) ^{チャージ}

シャッターボタン (21)

ホログラフィックAF
(27、別冊応用編 → 75)

セルフタイマーランプ (26)

バッテリーカバー (10)

レンズ

フラッシュ (26)

アドバンストアクセサリー
リシュー (別冊応用編
→ 30)

レンズキャップ/ベルト
取付部

ディスクカバー
OPENレバー (17)

アクセサリ
ACC 端子 (別冊応用編
→ 30)

レンズキャップ

三脚用ネジ穴 (底面)

USB 端子 (54)

A/V OUT (モノラル)
端子 (33)



- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚をお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。
- ACC端子には外部フラッシュなどをつなぎます。
- マイクは撮影時は触れないでください。

POWERランプ(14)

コントロールボタン

(メニューオン時)(▲/▼/◀/▶/●)

(メニューオフ時)(⚡/☺/☺/🌸)(26、26、23、25)

CHGランプ(11)

外光採入窓

液晶画面

ACCESSランプ(17)

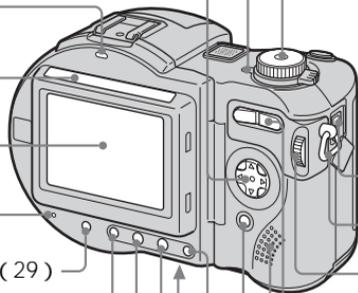
DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFFボタン(29)

AE LOCKボタン(別冊応用編 ➡ 18)

FOCUSボタン(別冊応用編 ➡ 11、14)

☒(EV補正)ボタン(別冊応用編 ➡ 15)

RESETボタン(底面)(別冊応用編 ➡ 54)



モードダイヤル(15)

📷: 静止画オート撮影

P: 静止画プログラム撮影

S: シャッタースピード優先モード

A: 絞り優先モード

M: マニュアル露出モード

シーン
SCN: シーンセレクション

セットアップ
SET UP: SET UPの項目設定

🎞️: 動画撮影 / クリップモーション
撮影 / マルチ連写

▶: 画像再生 / 編集

DC IN端子(10、13)

ベルト取付部

ジョグダイヤル(別冊応用編 ➡ 5)

ズームボタン(撮影時)(24) /
インデックスボタン(再生時)(32)

スピーカー

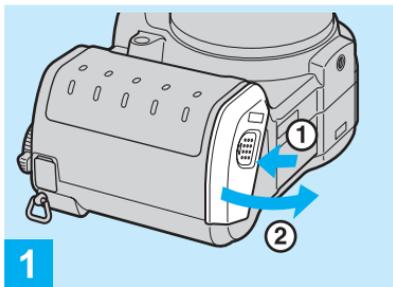
メニュー
MENUボタン(別冊応用編 ➡ 4、70)

📏/🗑️ 画像サイズ/削除)ボタン(19、34)

- 外光採入窓に太陽光などが入ると、液晶画面がより明るくなります。

別冊の「CDマビカ応用編 / 困ったときは」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「別冊応用編 ➡ ページ番号」のようにご案内しています。

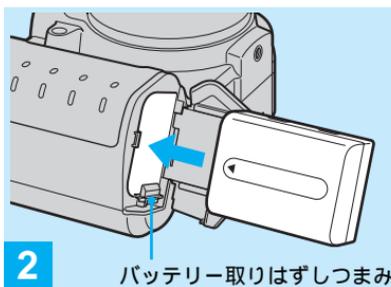
バッテリーを充電する



➔ バッテリーカバーを開ける

矢印の方向にスライドさせると、開きます。

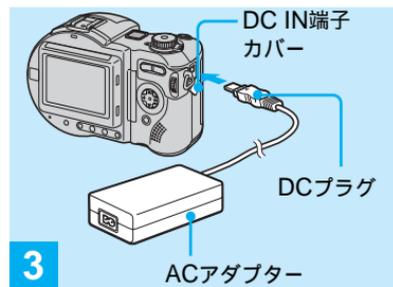
- バッテリーを充電するときは、必ず本機の電源を切ってください(14ページ)。
- 本機の電源には“インフォリチウム”バッテリー(Mシリーズ)NP-FM50(付属)を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません(別冊応用編 ➔ 82ページ)。



➔ バッテリーを入れて、バッテリーカバーを閉める

バッテリーの◀マークを奥にして入れます。
バッテリーが奥まで確実に入ったことを確かめてからカバーを閉めてください。

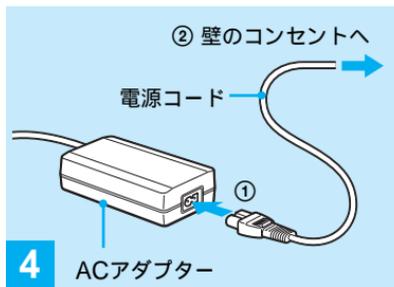
- バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみを外側に押しながらバッテリーを入れると、簡単に入ります。



➔ DC IN端子カバーを開け、ACアダプター(付属)のケーブルを本機のDC IN端子につなぐ

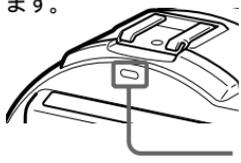
DCプラグの▲マークを上にしてつなぎます。

- ACアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- ACアダプターのDCプラグを汚れたまま使わないでください。汚れは乾いた綿棒などで拭き取ってください。汚れたままご使用になると正しく充電されないことがあります。



➔ 電源コードをACアダプターと壁のコンセントにつなぐ

充電が始まり、 \mathcal{H} /CHGランプが点灯します。

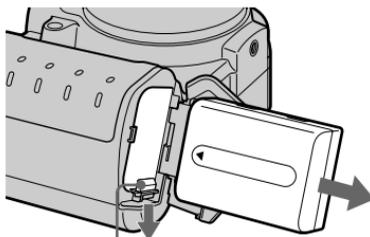


\mathcal{H} /CHGランプ

充電が終わると \mathcal{H} /CHGランプが消えます。

- バッテリーの充電が終わったら、ACアダプターを本機のDC IN端子から取りはずしてください。

バッテリーを取り出す



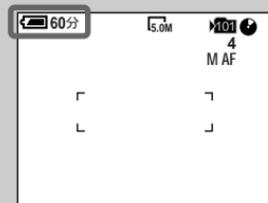
バッテリー取りはずしつまみ

バッテリーカバーを開け、バッテリー取りはずしつまみを矢印の方向に押し取り出してください。

- 取り出すときは、バッテリーが落下しないようにご注意ください。

バッテリー残量時間表示

撮影 / 再生可能な残り時間が液晶画面に表示されます。



- イラストのバッテリー残量表示の黒い部分が、実際のバッテリー残量を示します。
- 使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。

充電時間

使い切ったバッテリーを温度25℃の環境で、ACアダプターで充電したときの時間です。

バッテリー	充電時間
NP-FM50(付属)	約150分



準備する



バッテリーを充電する(つづき)

バッテリーの使用時間と撮影/再生可能枚数

次の表は撮影モードを通常撮影にし、充電した付属のバッテリーで温度25°Cの環境で使用した場合の目安です。また、撮影/再生枚数は付属のディスクを交換しながら撮影/再生したときの目安です。ご使用の状況によって記載より少ない数値になる場合があります。

静止画を撮影するとき
標準撮影¹⁾

画像サイズ	NP-FM50(付属)	
	撮影枚数	使用時間
5.0M	約220枚	約110分
VGA	約250枚	約125分

¹⁾以下の設定で撮影

- 画質を[ファイン]にする
- 30秒ごとに1回撮影
- 1回ごとにズームをW側、T側に交互にいっぱいにする
- 2回に1度、フラッシュを発光
- 10回に1度、電源を入/切する
- [AFモード]が[モニタリング]のとき

静止画を再生²⁾するとき

画像サイズ	NP-FM50(付属)	
	再生枚数	使用時間
5.0M	約1900枚	約160分
VGA	約2000枚	約170分

²⁾約5秒ごとにシングル画面で順番に再生

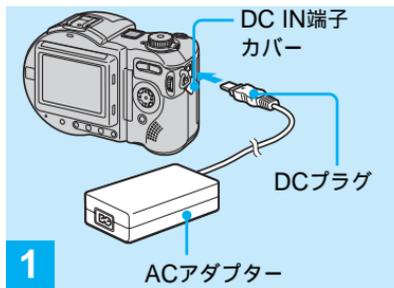
動画を撮影³⁾するとき

	NP-FM50(付属)
	使用時間
連続撮影時	約130分

³⁾画像サイズが160(Mail)の場合の連続撮影

- 次のような場合は使用時間と撮影/再生枚数は、表示よりも少なくなります。
 - 周囲が低温のとき
 - フラッシュ使用時
 - 電源の入/切を繰り返したとき
 - ズームを多用したとき
 - [LCDバックライト]が[明]になっているとき
 - 使用回数を重ねたり、時間が経過してバッテリーの容量が低下したとき(別冊応用編 ▶▶ 82ページ)
 - [AFモード]を[コンティニューアス]にしているとき

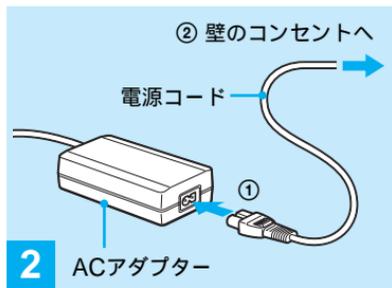
外部電源で使う



➔ DC IN端子カバーを開け、ACアダプター(付属)のケーブルを本機のDC IN端子につなぐ

DCプラグの▲マークを上にしてつなぎます。

- ACアダプターは、お手近なコンセントを使用してください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

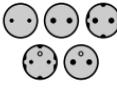


➔ 電源コードをACアダプターと壁のコンセントにつなぐ

- 使い終わったら、ACアダプターを本機のDC IN端子から取りはずしてください。

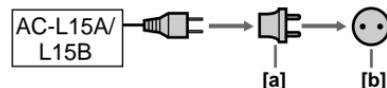
海外で使うときは

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	変換プラグアダプター
 主に北米など	不要です。
 主にヨーロッパなど	

本機は海外でもお使いになれます。

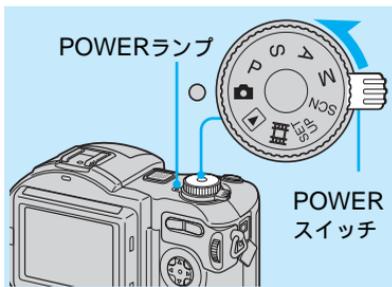
- 付属のACアダプターは、全世界の電源(AC 100 V ~ 240 V · 50/60 Hz)でお使いただけます。
- 下図のように、付属のACアダプターを差し込む変換プラグアダプター[a]が必要になる場合があります。



- 変換プラグアダプター[a] / 電源コンセント[b]の形状は旅行先の国や地域によって異なります。あらかじめ、旅行代理店などでおたずねの上、ご用意ください。
- 電子式変圧器(トラベルコンバーター)はご使用にならないでください。故障の原因となります。

準備する

電源を入れる / 切る



→ POWERスイッチを矢印の方向にずらして、電源を入れる

POWERランプが緑色に点灯し、電源が入ります。初めて電源を入れたときは、時計設定画面が表示されます(15ページ)。

電源を切る

POWERスイッチを再び矢印の方向にずらすと、POWERランプが消え、電源が切れます。

- レンズが出た状態でバッテリーやACアダプターを抜かないでください。故障の原因になります。
- モードダイヤルが「」、「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかになっているときは、電源を入れると、レンズ部が動きます。レンズ部に触れないようにご注意ください。

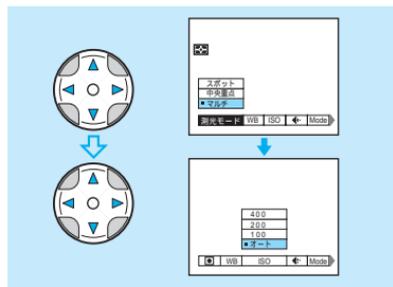
オートパワーオフ機能

バッテリーを使って、撮影、再生またはセットアップを行っているとき、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。

ただし、バッテリー使用中でも、下記の場合はオートパワーオフ機能は働きません。

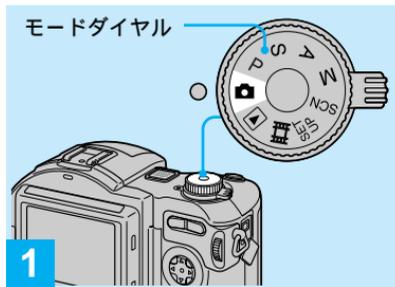
- 動画再生時
- (USB) 端子、またはAV OUT (MONO) 端子にプラグが接続されているとき

コントロールボタンについて

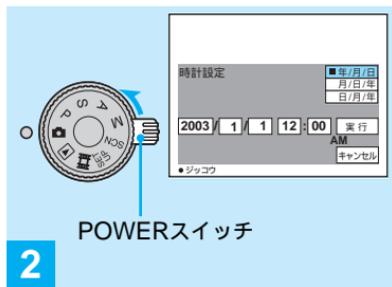


本機の設定を変えるときは、液晶画面にメニューやSET UP画面(別冊応用編 → 4ページ)を表示させ、コントロールボタンを使って操作します。各項目を設定するときは、コントロールボタンの▲▼◀▶を押して、項目や設定を選び、最後に中央の●、または▲▼◀▶を押して決定します。

日付／時刻を合わせる

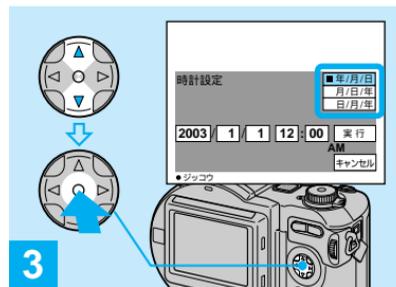


→ モードダイヤルを「」にする



→ POWERスイッチを矢印の方向にずらして、電源を入れる

POWERランプが緑色に点灯し、時計設定画面が表示されます。



→ コントロールボタンの▲/▼で年月日の表示順を選び、中央の●を押す

表示は、[年/月/日] [月/日/年] [日/月/年]の中から選びます。

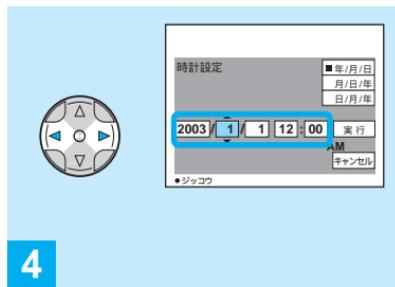
- モードダイヤルを「P」, 「S」, 「A」, 「M」, 「SCN」, 「」, 「」の位置にしても操作できます。
- 一度設定した日付、時刻を合わせ直すときは、モードダイヤルを「SET UP」に合わせ、 (設定1) の [時計設定] を選んで (別冊応用編 → 4、77ページ) 手順③から行ってください。

- 時計の設定を記憶しておくための充電式ボタン電池の残量が少なくなると (別冊応用編 → 80ページ) 自動的に時計設定画面が表示されます。このときは手順③以降を行って日付、時刻を設定し直してください。



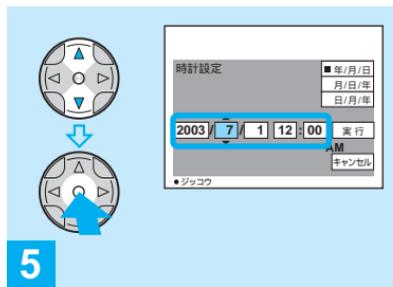
準備する





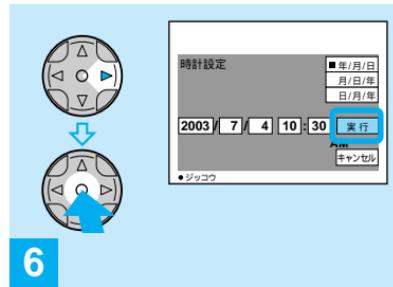
4 → コントロールボタンの◀/▶で設定する年、月、日、時の項目を選ぶ

設定する項目の上下に▲/▼が表示されます。



5 → コントロールボタンの▲/▼で数値を設定して、中央の●を押す

数値が確定され、次の項目に移ります。上記の手順を繰り返して、すべての項目を設定してください。



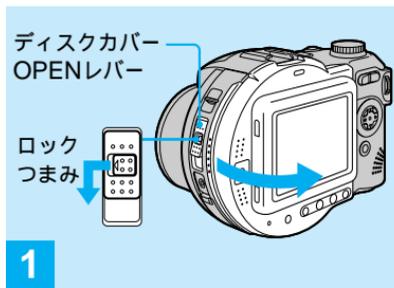
6 → コントロールボタンの▶で[実行]を選び、中央の●を押す

日付・時刻が設定され、時計が動き始めます。

• 手順③で[日/月/年]を選んだときは、24時間表示で設定してください。

• 中止するときは、コントロールボタンで[キャンセル]を選び、中央の●を押します。

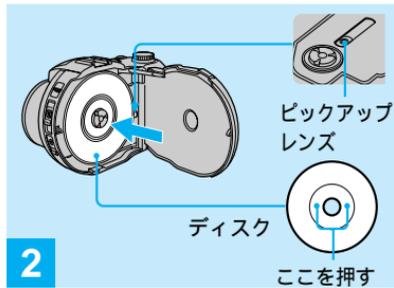
ディスクを入れる／取り出す



➔ ディスクカバーを開ける

ロックつまみを左側にずらしたまま、ディスクカバー-OPENレバーを下にずらします。

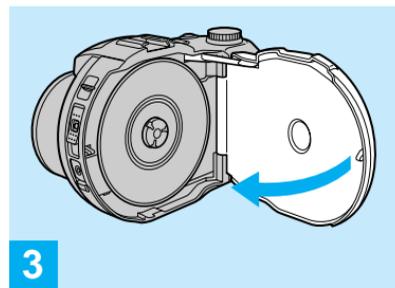
- 本機で使えるディスクは、のロゴが入った8cm CD-R/CD-RWのみです。
- ディスクについては、別冊応用編 ➔ 81ページをご覧ください。



➔ ディスクを入れる

ディスクの印刷面を上にして、ディスクの中心をディスクがロックされるまで(「カチッ」と音がするまで)押し込みます。

- ディスク装着時に無理な力を加えないでください。
- ピックアップレンズに触れないように注意してください。



➔ ディスクカバーを閉める

ディスクを取り出すときはディスクカバーを開け、ディスクの回転が完全に止まっていることを確認してから取り出してください。

- ACCESSランプが点滅しているときは、画像の記録中、読み出し中です。このとき、絶対にディスクカバーを開けたり、電源を切ったりしないでください。データが壊れたり、ディスクが使えなくなることがあります。
- ディスクにデータを書き込んでいるときはディスクカバー-OPENレバーがロックされます。
- ディスクの状態によってはディスクを交換した直後に「データ修復中」と表示され、撮影可能になるまで約10分かかります。



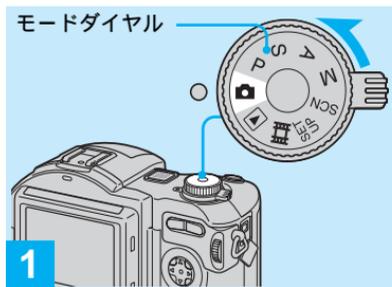
静止画を撮る

ディスクをイニシャライズする

イニシャライズについて

本機でディスクに画像データを記録できるようにする操作がイニシャライズです。

画像をCD-ROMドライブで読めるようにする操作(ファイナライズ)(40ページ)を本機で行った場合は、自動的にイニシャライズも行われるので、引き続き画像の追加書き込みができます。ファイナライズする以前に記録した画像ファイルはそのまま残ります。

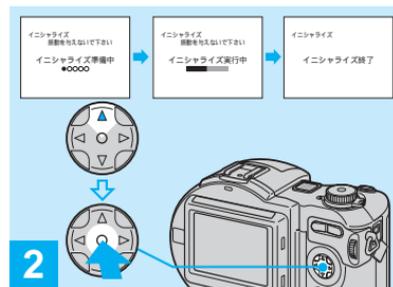


➔ 新しいディスクを入れ、モードダイヤルを「」にしてから、電源を入れる

「イニシャライズ 安定した所に置いて下さい」と表示されます。

中止するには
コントロールボタンの▼で[キャンセル]を選び、中央の●を押してください。
一度中止した後にイニシャライズするには、ディスクカバーを開閉し、手順**1**から行ってください。

• モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」の位置にしても操作できます。

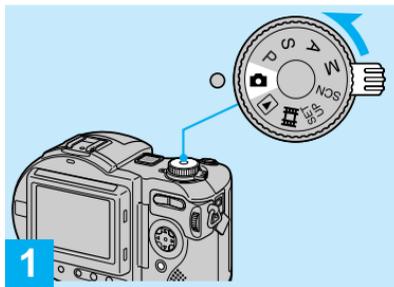


➔ コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す

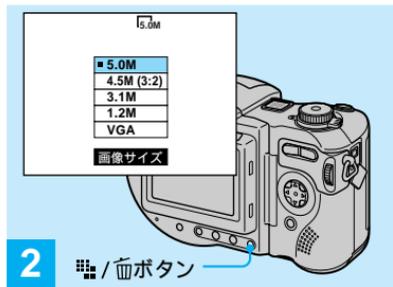
イニシャライズが始まります。実行中は本機に振動を与えないでください。

• 「SET UP」の[] (ディスクツール1)を選んでイニシャライズを行うこともできます(別冊応用編 ➔ 76ページ)。

静止画の画像サイズを決める

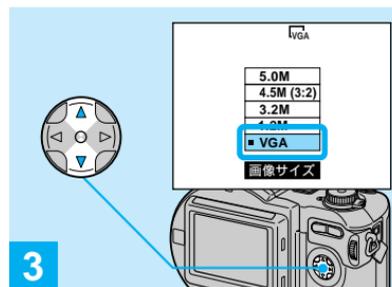


- 1**
- モードダイヤルを「」にして、電源を入れる



- 2**
-  /  (画像サイズ) ボタンを押す

画像サイズが表示されます。



- 3**
- コントロールボタンの▲/▼で希望の画像サイズを選ぶ

画像サイズが確定します。
設定が終わったら、 /  (画像サイズ) ボタンを押してください。液晶画面から画像サイズの表示が消えます。

• モードダイヤルを「P」_、「S」_、「A」_、「M」_、「SCN」の位置にしても操作できます。

• 画像サイズについては、20ページをご覧ください。

• ここで選んだ画像サイズの設定は、電源を切った後も保持されます。



静止画を撮る



画像サイズと画質について

撮影目的に合わせて、画像のサイズ（画素数）と画質（圧縮率）を選ぶことができます。画像サイズを大きく、画質を高くするほど、画像はきれいになりますが、データ容量が大きくなり、ディスクに記録できる枚数は少なくなります。

目的に合った画像サイズと画質をお選びください。

撮影した画像のサイズをあとで変えることもできます（リサイズ機能、別冊応用編 ➡ 40ページ）。

画像サイズは下記の5種類から選ぶことができます。用途例はその画像サイズに適する最小画素数の場合です。よりきれいな画像にするとときは、画像サイズを大きくしてください。

画像サイズ		用途例
5.0M	2592 × 1944	高精細プリント
4.5M(3:2)	2592(3:2)	3:2プリント ¹⁾
3.1M	2048 × 1536	A4プリント
1.2M	1280 × 960	ハガキサイズの印刷
VGA	640 × 480	ホームページ作成

¹⁾ プリント紙の横縦比3:2に合うように、画像を3:2で撮影します。

付属のCD-R 1枚に記録できる枚数²⁾

（単位：枚）

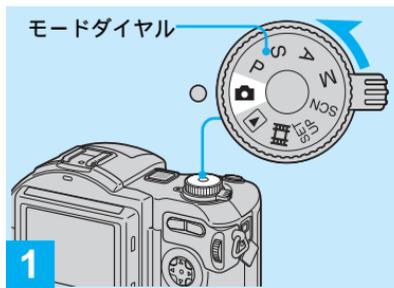
画像サイズ \ 画質 ³⁾	ファイン	スタンダード
5.0M	51	95
4.5M(3:2)	51	95
3.1M	81	145
1.2M	194	345
VGA	655	1285

²⁾ 撮影モードが[通常撮影]の場合
その他のモードの記録枚数は別冊応用編
➡ 68～69ページをご覧ください。

³⁾ 画質については別冊応用編 ➡ 6ページ
をご覧ください。

- 当社従来モデルで撮影された画像を再生したとき、実際の画像サイズと異なる表示となる場合があります。
- 本機の液晶画面で見るときはどの画像サイズでも同じ大きさに見えます。
- 記録枚数は、撮影状況によって数値と異なる場合があります。
- 撮影残枚数が9999より多いとき、「> 9999」と表示されます。

簡単に撮る—オート撮影



➔ モードダイヤルを「**P**」にして、電源を入れる

液晶画面に画像の記録フォルダの名前が約5秒間表示されます。

- 本機ではディスクに記録するフォルダを新しく作成したり、選択することができます(別冊応用編 ➔ 6ページ)。



➔ 両手でカメラを構え、被写体をフレーム中央部におさめる

電源を入れるとレンズ部が動きます。レンズやフラッシュ発光部に指がかからないようにしてください。

- ピント合わせに必要な被写体までの距離は約50cm以上です。これより近くの被写体を撮影するときは近接(マクロ)撮影してください(25ページ)
- 液晶画面内に入る枠はピント合わせをおこなう範囲を表します。(AF側距枠、別冊応用編 ➔ 11ページ)



➔ シャッターボタンを半押しする

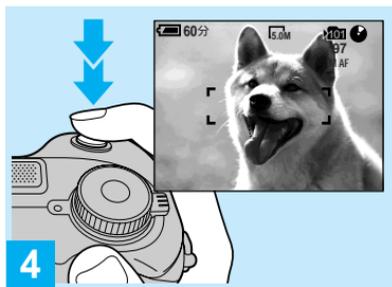
「ピピッ」と音がします。液晶画面内のAE/AFロック表示が点滅から点灯が変わると、撮影可能です。(被写体によっては画面が一瞬止まる場合があります。)撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的にフラッシュが持ち上がり発光します。

- シャッターボタンを離せば、いつでも撮影を中止できます。
- 「ピピッ」と音がしないときはAFロックが失敗しています。このまま撮影することもできますが、ピント合わせは正しく設定されていません(コンティニユスAF時を除く、別冊応用編 ➔ 12ページ)。



静止画を撮る





→ 半押しのまま、シャッターボタンをさらに押し込む

「カシャッ」と音がして、撮影が完了し静止画がディスクに記録されます。ACCESSランプ(9ページ)が消えると、次の撮影ができます。

- ・バッテリーを使って撮影を行っているとき、本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。(14ページ)
- ・ディスクに書き込み中はACCESSランプが点滅します。点滅中は、本機に振動や強い衝撃を絶対に与えないでください。また、電源を切ったり、バッテリーを取り出したり、ディスクカバーを開けたりしないでください。データが壊れたり、ディスクが使えなくなることがあります。

静止画撮影のモードダイヤルについて

本機で静止画を撮影するときは、以下のような撮影方法があります。

📷(静止画オート撮影)

撮影に必要なピント合わせや露出、ホワイトバランスの調節を自動でおこなうため、簡単に撮影することができます。また、画質は[ファイン]になります(別冊応用編 → 6ページ)

P(プログラムオート撮影)

メニューで撮影機能を設定できます(別冊応用編 → 4、70ページ)。またF値とシャッタースピードの組み合わせを変更できます(プログラムシフト、別冊応用編 → 8ページ)

S(シャッタースピード優先)

メニューで撮影機能を設定できます(別冊応用編 → 4、70ページ)。またシャッタースピードを選べます(別冊応用編 → 9ページ)

A(絞り優先)

メニューで撮影機能を設定できます(別冊応用編 → 4、70ページ)。また絞り値を選べます(別冊応用編 → 9ページ)

M(マニュアル)

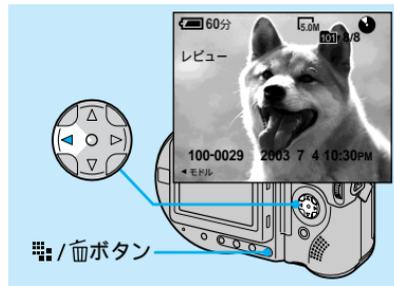
メニューで撮影機能を設定できます(別冊応用編 → 4、70ページ)。またシャッタースピードと絞り値を手動で調節できます(別冊応用編 → 10ページ)

SCN(シーンセレクション)

シーンに応じて最適な撮影ができます。以下のモードが選択できます(別冊応用編 → 27ページ)

- 🌙(夜景モード)
- 🌙👤(夜景&人物モード)
- 🏔️(風景モード)
- 👤(ポートレートモード)
- ❄️(スノーモード)
- 🏊(ビーチモード)

最後に撮影した画像を確認 める—クイックレビュー



静止画を撮る

→ コントロールボタンの◀(⊖)を押す

通常の撮影モードに戻るには、シャッターボタンを軽く押すか、もう一度コントロールボタンの◀(⊖)を押します。

表示された画像を削除する

- 1 削除ボタンを押す。
- 2 コントロールボタンの▲で[削除]を選んで、中央の●を押す。
画像が削除されます。

ピント合わせについて

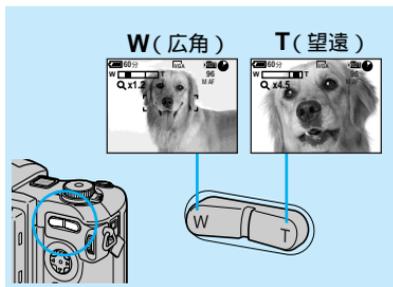
ピントを合わせにくい被写体を撮影しようとしたときは、点滅していたAE/AFロック表示が遅い点滅に変わります。

自動ピント合わせ(AF=オートフォーカス)の場合は、下記の条件でピントが合いにくいことがあります。構図を変えるなどしてもう一度ピントを合わせてみてください。

- 被写体が遠くて暗い
- 被写体と背景のコントラストが弱い
- ガラス越しの被写体
- 高速で移動する被写体
- 鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
- 点滅する被写体
- 逆光になっている被写体

本機には、被写体の位置やその大きさによってピント合わせの位置を設定できる「AF測距枠」と、AFのレスポンスやバッテリー消費量に合わせてピント合わせの動作を設定できる「AFモード」の2つの機能があります。詳しくは別冊応用編 → 11ページをご覧ください。

ズームで撮る



→ ズームボタンで希望の大きさにし、撮影する

ピントが合うための最短距離
レンズ先端から約50 cm

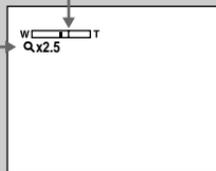
- ズーム時はレンズ部が動きます。レンズ部に触れないようご注意ください。
- 動画撮影中はズーム倍率を変更することはできません(別冊応用編 → 44ページ)。

スマートズームとは

デジタル処理により画像を劣化させずに拡大する機能です。3倍を越えるズームは、スマートズームになります。この機能を使わないときは、「SET UP」の[スマートズーム]を[切]にしてください(別冊応用編 → 75ページ)。ズームボタンを押すと、液晶画面にズーム倍率表示が表示されます。

ズーム倍率表示

このラインよりT側はスマートズーム



最大ズーム倍率は画像サイズによって異なります。

3.1Mのとき：3.8倍

1.2Mのとき：6.1倍

VGAのとき：12倍

画像サイズが[5.0M]または[4.5M(3:2)]に設定されているときは、スマートズームを使用できません。

- スマートズーム時、液晶画面を見ると画像が粗く見える場合がありますが、撮影される画像には影響ありません。
- スマートズーム時はAF測距枠は表示されません。AF測距枠表示が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。

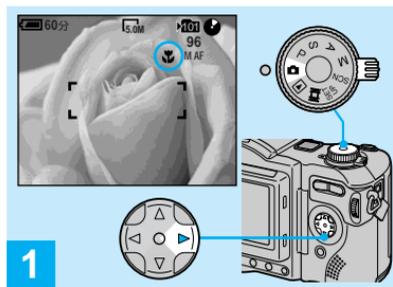
近接撮影—マクロ撮影



花や昆虫など、小さな被写体に接近して撮りたいときは、近接(マクロ)撮影をします。下記の距離まで被写体に接近して撮影することができます。

ズームがW側いっぱいするとき：
レンズ先端から約4cm

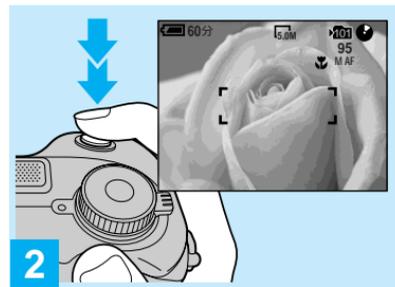
ズームがT側いっぱいするとき：
レンズ先端から約20cm



1 → モードダイヤルを「」にして、コントロールボタンの▶()を押す

液晶画面に (マクロ)が表示されます。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」() (夜景モード)  (風景モード) 以外) (別冊応用編 → 27ページ)、「」の位置にしても操作できます。



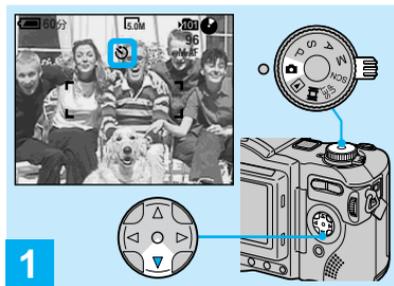
2 → 被写体をフレーム中央部に置き、シャッターボタンを深く押し込む

通常撮影に戻すにはもう1度コントロールボタンの▶()を押してください。液晶画面からが消えます。



静止画を撮る

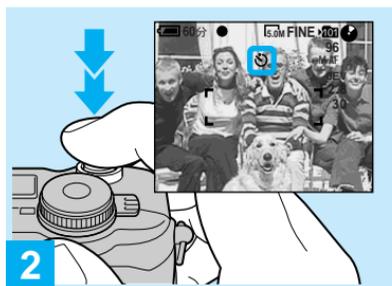
セルフタイマーで撮る



- ➔ モードダイヤルを「S」にして、コントロールボタンの▼(⏏)を押す

液晶画面に⏏(セルフタイマー)が表示されます。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」の位置にしても操作できます。



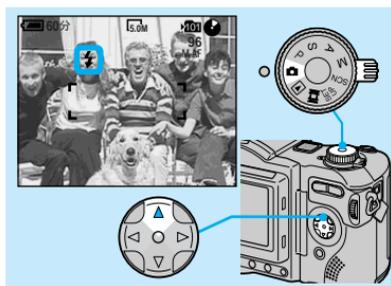
- ➔ 被写体をフレーム中央部に合わせ、シャッターボタンを深く押し込む

セルフタイマーランプ(8ページ)が点滅し、「ピッピッ」とビープ音が鳴ります。約10秒後に撮影されます。

セルフタイマーを途中で止めるにはもう一度コントロールボタンの▼(⏏)を押してください。液晶画面から⏏が消えます。

- カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピントや明るさが正しく設定されないことがあります。

フラッシュモードを選ぶ



- ➔ モードダイヤルを「S」にして、コントロールボタンの▲(⏏)を繰り返し押し、フラッシュモードを選ぶ

フラッシュモードは下記の通りです。表示なし(オート): 撮影状況の光量が足りないと判断した場合、自動的に発光します。

⚡(強制発光): 周囲の明るさに関係なく発光します。

⚡sl(スローシンクロ): 周囲の明るさに関係なく発光します。暗いところでシャッタースピードが遅くなるので、フラッシュが届かない背景も明るく写すことができます。

ⓧ(発光禁止): 発光しません。

- メニューが表示されているときは、最初にMENUボタンを押してメニューを消してください。
- モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN(人ポートレートのみ)」、「ク(クリップーションのみ)」の位置にしても操作できます。
- フラッシュ推奨撮影距離は0.5m~5.0mです([ISO]が[オート]のとき)
- フラッシュの発光量はメニューの[フラッシュレベル]で変えることができます(別冊応用編 71ページ)(モードダイヤルが「」のときは操作できません。)
- ♫(スローシンクロ) または (X)(発光禁止)のとき、暗い場所ではシャッタースピードが遅くなるので、三脚の使用をおすすめします。
- フラッシュを充電している間は、♫/CHGランプが点滅し、充電が完了すると消灯します。
- フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを半押しすると、♫/CHGランプが点灯します。
- 本機には外部フラッシュを取り付けることができます(別冊応用編 30ページ)
- コンバージョンレンズ(別売り)を付けていると、フラッシュの光をさえぎり、レンズの影が映る(ケラれる)ことがあります。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

赤目軽減するには

撮影前にフラッシュが予備発光し、目が赤く写るのを軽減します。「SET UP」の[赤目軽減]を[入]にしてください(別冊応用編 75ページ)。液晶画面にが表示されます。

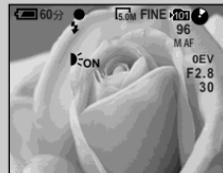


- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が表れにくいことがあります。

補助光を使って撮影する —ホログラフィックAF

暗い場所でフォーカスを合わせるための補助光です。この機能を使わないときは、「SET UP」の[ホログラフィックAF]を「切」にしてください(別冊応用編 75ページ)。

撮影時にが表示され、シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間だけ自動的に赤く発光します。



- ホログラフィックAFを発光しても、十分な光が被写体に届かない場合(推奨距離は約0.5~4.0mまで)やコントラストが弱い被写体を撮影する場合、フォーカスは合いません。
- ホログラフィックAFの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- フォーカスプリセット(別冊応用編 → 14ページ)のとき、ホログラフィックAFは使えません。
- 「SET UP」の[コンパージョンレンズ](別冊応用編 → 76ページ)が[入]のとき、ホログラフィックAFは使えません。
- ホログラフィックAF発光部が汚れていると、ホログラフィックAFの光がぼやけてフォーカスが合いにくくなります。このような場合は、ホログラフィックAF発光部を乾いた布などで拭いてください。
- ホログラフィックAFは明るい光です。安全には問題はありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。
- ホログラフィックAF発光部を手で覆わないようにご注意ください。
- AF測距枠は表示されません。AF測距枠表示が点滅し、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- SCNで  (夜景モード) または  (風景モード) が設定されているときは、ホログラフィックAFは発光しません。

ホログラフィックAFとは

「ホログラフィックAF」はレーザーホログラムを応用し、暗闇での静止画撮影を可能にしたAF補助光システムです。このシステムはレーザー出力クラス1*を満たしており、従来の高輝度LEDや高輝度ランプを用いたシステムより、目にやさしく、安全性が高いという特長があります。

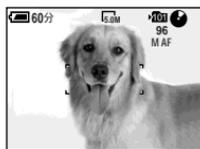
* JIS規格(JP)、IEC規格(EU)、FDA規格(US)全ての時間基準30000秒のクラス1を満たしています。これはレーザー光を直接、またはレンズなどで集光して30000秒間のぞき込んでも安全なレーザー製品を意味しています。

画面上の表示は



DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/
OFFボタンを押すたびに、表示が次の
順で切り換わります。

画面表示オン



ヒストグラム表示オン



画面表示オフ



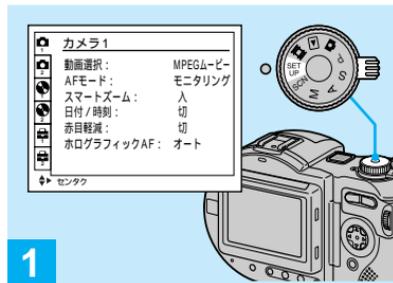
バックライトオフ

- 表示項目について詳しくは、別冊応用編
→ 86ページをご覧ください。

- ヒストグラムについて詳しくは、別冊応
用編 → 16ページをご覧ください。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も
保持されます。



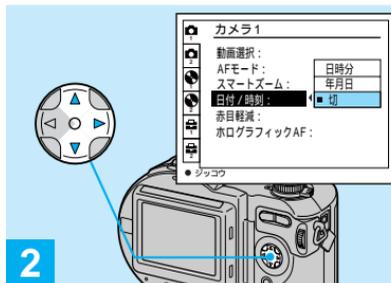
日付や時刻を入れて撮る



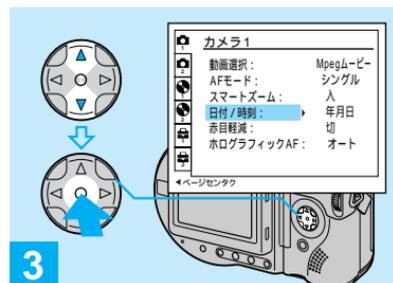
→ モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。

- 日付や時刻を入れて撮影すると、あとで消去できませんのでご注意ください。
- 撮影時は実際の日付や時刻は表示されず、液晶画面左上にが表示されます。実際の日付や時刻は、再生時に画像右下に赤色で表示されます。



→ コントロールボタンの▲で [] (カメラ1) を選び、▶を押す。
▲/▼で [日付 / 時刻] を選び、▶を押す



→ コントロールボタンの▲/▼で挿入するデータの種類を選び、中央の●を押す

日時分：画像に撮影日時分を入れる
年月日：画像に撮影年月日を入れる
切：画像に日付・時刻は記録されない

設定が終わったら、モードダイヤルを「」にして、撮影してください。

- モードダイヤルを「P」, 「S」, 「A」, 「M」, 「SCN」の位置にしても日付/時刻を挿入できます。
- [年月日]を選んだ場合、「日付/時刻を合わせる」(15ページ)で選んだ表示順の年月日が入ります。
- ここで選んだ設定は、電源を切った後も保持されます。

本機の液晶画面で見る

シングル(1枚表示)画面



インデックス
(9枚表示)画面



インデックス
(3枚表示)画面



撮影した画像を本機の液晶画面ですぐに見ることができます。表示方法は下記の3種類から選ぶことができます。

シングル(1枚表示)画面

1枚の画像を画面いっぱいで見ることができます。

インデックス(9枚表示)画面

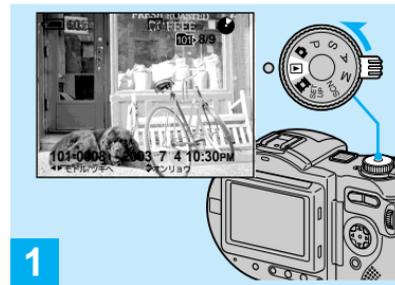
9枚の画像を同時に見ることができます。

インデックス(3枚表示)画面

3枚の画像を同時に見ることができます。画像情報も表示できます。

- 表示した画像はジョグダイヤル(9ページ)を回して、画面を先送りしたり、前に戻したりできます。
- 動画の再生について詳しくは、別冊応用編 ➡ 45ページをご覧ください。
- 表示項目について詳しくは、別冊応用編 ➡ 86ページをご覧ください。

シングル画面で見る

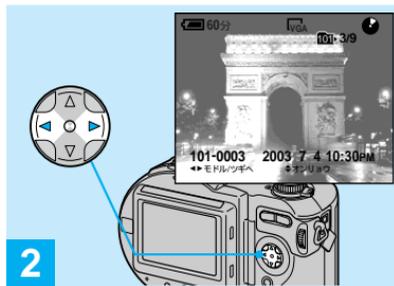


➡ モードダイヤルを「」にして、電源を入れる

選択されている記録フォルダ(別冊応用編 ➡ 7ページ)の最新の画像が表示されます。

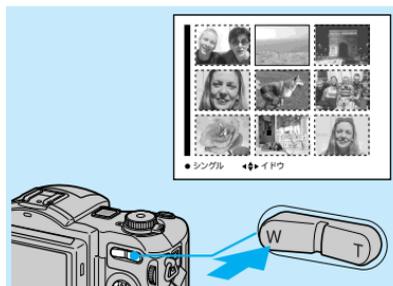
静止画を見る

インデックス(9枚/3枚表示)画面で見る



➔ コントロールボタンの◀/▶で
静止画を選ぶ

- ◀ : 前の画像が表示されます。
- ▶ : 次の画像が表示されます。



➔ ズームW(インデックス)ボタン
を1回押す

インデックス(9枚表示)画面に切り換
わります。

次(前)のインデックス画面を表示する
には
コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し
て、黄色い枠を上下左右に動かしてく
ださい。



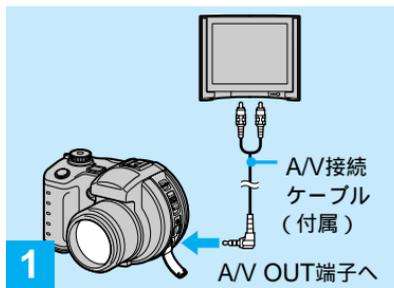
➔ ズームW(インデックス)ボタン
をもう1回押す

インデックス(3枚表示)画面に切り換
わります。コントロールボタンの▲/▼を
押しと残りの画像情報が表示されます。

次(前)のインデックス画面を表示する
には
コントロールボタンの◀/▶を押しにく
ださい。

シングル画面に戻るには
ズームTボタンを繰り返し押すか、コン
トロールボタンの中央の●を押してく
ださい。

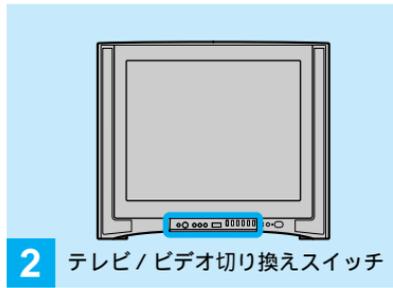
テレビで見る



➔ 付属のAV接続ケーブルで本機のAV OUT (MONO) 端子と、テレビの音声/映像入力端子を接続する

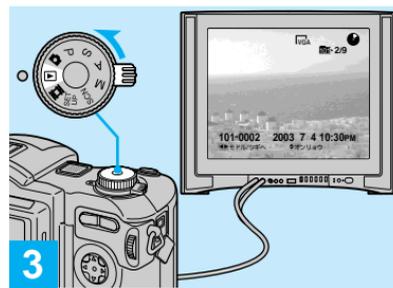
テレビの音声入力端子がステレオタイプの場合はAV接続ケーブルの音声プラグ(黒)を左音声端子に接続してください。

- 本機とテレビの電源を切ってからAV接続ケーブルをつないでください。
- 途中で電源が切れないようにするために、ACアダプター(付属)のご使用をおすすめします。



➔ テレビの電源を入れ、テレビ/ビデオ切り換えスイッチを「ビデオ」にする

- お使いのテレビによって、スイッチの名称や位置は異なります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。



➔ モードダイヤルを「静止画」にして、本機の電源を入れる

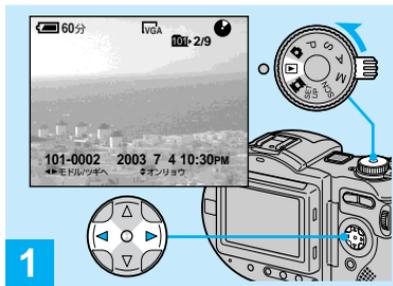
コントロールボタンの◀/▶で画像を選びます。

- 海外でお使いのときは、ビデオ出力信号の切り換えが必要な場合もあります(別冊応用編➔ 78ページ)。



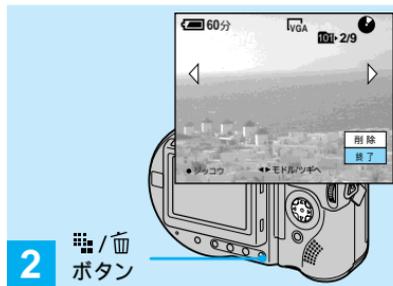
静止画を見る

静止画を削除する



- 1 → モードダイヤルを「**M**」にし、電源を入れる。
コントロールボタンの**◀▶**で削除したい画像を表示する

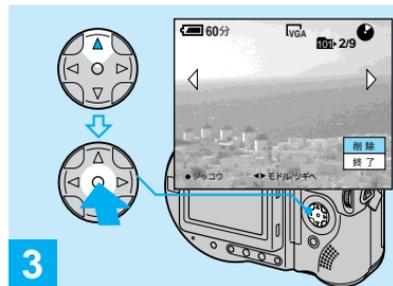
- CD-Rでは画像を消してもディスク残量は増えません。
- CD-RWでは**●**が液晶画面に出ている場合に限り、その時点で最新の画像を消すとディスク残量は元に戻ります。画像を加工したり、ディスクカバーを開閉したりすると**●**は消えます。
- ディスク残量が少ない場合、削除できないことがあります。
- 画像によっては削除に時間がかかる場合があります。



- 2 → **■/■** (削除) ボタンを押す

この時点ではまだ削除されていません。

- プロテクトされている画像(別冊応用編 → 38ページ)は削除できません。



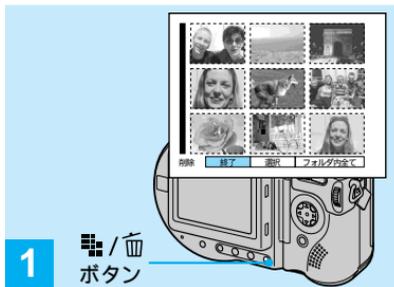
- 3 → コントロールボタンの**▲**で[削除]を選び、中央の**●**を押す

「アクセス中」という表示が消えると、画像が削除されます。

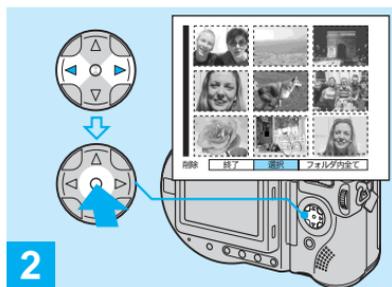
続けて他の画像も削除するにはコントロールボタンの**◀▶**で削除したい画像を表示します。次に**▲**で[削除]を選び、中央の**●**を押してください。

削除を中止するにはコントロールボタンの**▼**で[終了]を選び、中央の**●**を押してください。

インデックス(9枚表示)画面で削除する

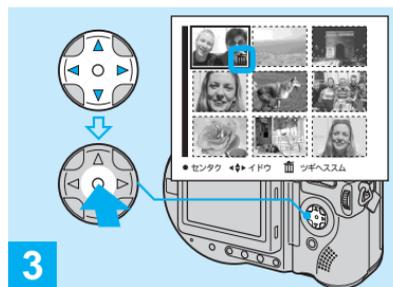


→ インデックス(9枚表示)画面(32ページ)で、 (削除) ボタンを押す



→ コントロールボタンの◀/▶で [選択] を選び、中央の●を押す

フォルダ内のすべての画像を削除するには
コントロールボタンの▶で [フォルダ内
全て] を選び、中央の●を押してください。
次に [実行] を選び、中央の●を押
してください。プロテクトされていない
すべての画像が削除されます。
削除を中止するときは [キャンセル] を
選び、中央の●を押してください。



→ 削除したい画像をコントロールボタンの▲/▼/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に緑色のマークがつきます。この時点ではまだ削除されていません。削除したいすべての画像にマークをつけてください。

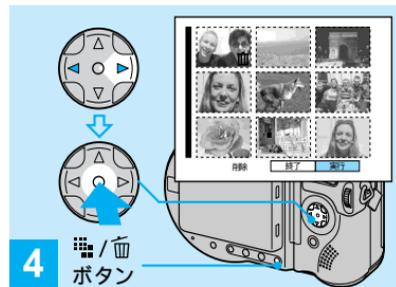
- 選択を取り消すには、もう一度取り消したい画像を選んで中央の●を押してください。マークが消えます。



静止画を削除する



インデックス(9枚表示)画面で削除する(つづき)

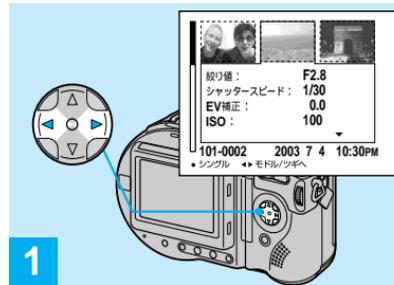


→ ■/☒ (削除) ボタンを押し、コントロールボタンの▶で[実行]を選び、中央の●を押す

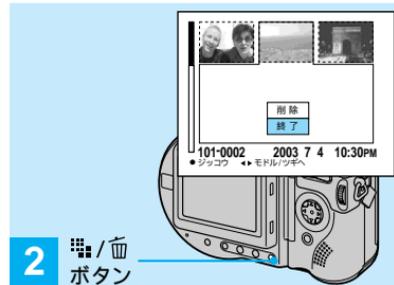
「アクセス中」という表示が消えると、☒ マークをつけた画像が削除されます。

削除を中止するには
コントロールボタンの◀で[終了]を選び、中央の●を押してください。

インデックス(3枚表示)画面で削除する



→ インデックス(3枚表示)画面(32ページ)で、コントロールボタンの◀/▶で削除したい画像を中央に表示する

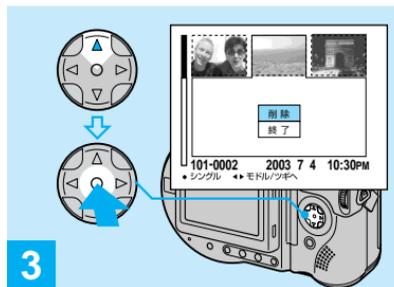


→ ■/☒ (削除) ボタンを押す

この時点ではまだ削除されていません。



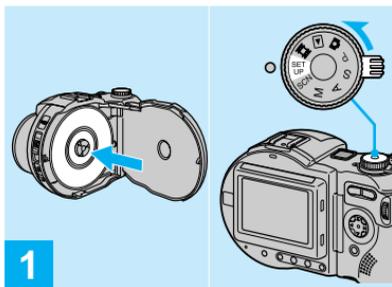
CD-RWをフォーマットする



3 → コントロールボタンの▲で[削除]を選び、中央の●を押す

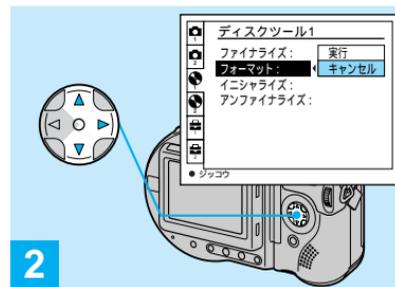
「アクセス中」という表示が消えると、中央の画像が削除されます。

削除を中止するには
コントロールボタンの▼で[終了]を選び、中央の●を押してください。



1 → フォーマットしたいCD-RWを入れる。
モードダイヤルを「SET UP」にして、電源を入れる

- CD-Rはフォーマットできません。
- 「フォーマット」とは、記録した画像をすべて消去するときや、本機以外でフォーマットしたCD-RWをお使いになるときにする作業のことで。
- フォーマットすると、プロテクトした画像を含め、CD-RW内のデータはすべて消去されますので、ご注意ください。フォーマットすると、そのCD-RWは自動的にイニシャライズされます。



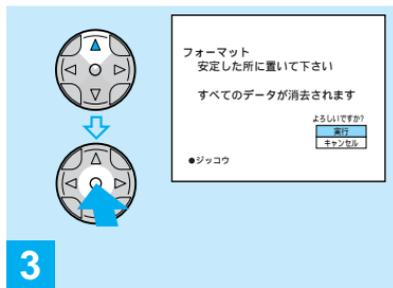
2 → コントロールボタンの▲/▼で[●] (ディスクツール1)を選ぶ。
▶を押して▲/▼で[フォーマット]を選び、▶を押す

- フォーマットの途中で電源が切れないようにするために、ACアダプターのご使用をおすすめします。



静止画を削除する

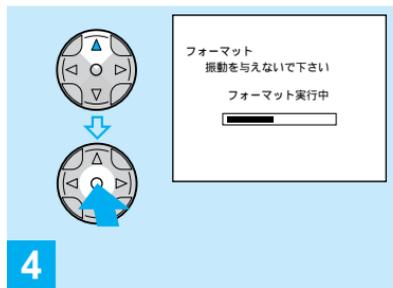




→ コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す

「フォーマット 安定した所に置いて下さい」と表示されます。

フォーマットを中止するには
コントロールボタンの▼で[キャンセル]を選び、中央の●を押してください。



→ もう一度コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す

「フォーマット実行中」という表示が消えると、フォーマットが完了します。

- フォーマットの実行には時間がかかる場合があります。
- 1枚のCD-RWに対して、フォーマットは約300回が限度です。
- 本機以外でフォーマットしても、そのCD-RWは本機で使えません。本機で再度フォーマットしてください。

パソコンで画像を見る—はじめに

パソコンで画像を見るには2つの方法があります。

- 画像をパソコンのCD-ROMドライブで見る(40ページ)(Windowsのみ)
- USB接続で画像をパソコンに取り込む(48ページ)(Windows、Mac OS Xのみ)

パソコンの推奨使用環境

Windowsパソコン環境

OS: Microsoft Windows 98/
Windows 98SE/
Windows 2000 Professional/
Windows Millennium Edition/
Windows XP Home Edition/
Windows XP Professional
工場出荷時にインストールされていることが必要です。

上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

CPU: MMX Pentium 200 MHz以上
USB端子: 標準装備であること
ディスプレイ: 800×600ドット以上、High Color(16bitカラー、65000色)以上

Macintosh環境

OS: Mac OS X (v10.0/v10.1/
v10.2)

- USB接続のみ可能です。CD-ROMドライブでディスクを見ることはできません。

USB端子: 標準装備であること

ディスプレイ: 800×600ドット以上、32000色モード以上

- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

パソコンとの通信について

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

USB端子がないパソコンをお使いの場合は

ファイナライズしたディスクをCD-ROMドライブに入れて画像を取り込みます。(Windowsのみ)



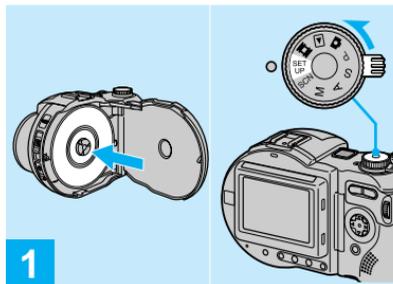
パソコンのCD-ROMドライブで見る

① ディスクをファイナライズする

本機で記録したディスクをパソコンのCD-ROMドライブで再生するときは、「SET UP」の[ファイナライズ]を実行してください。ファイナライズを実行していないディスクは、CD-ROMドライブで認識することができません。

ファイナライズについて

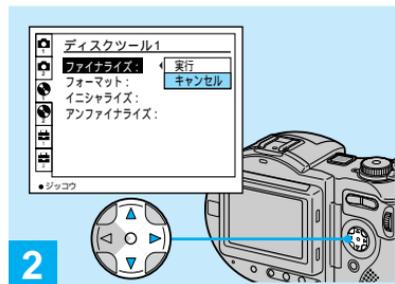
- 本機で記録した画像データを、CD-ROMドライブで読めるようにする操作がファイナライズです。
- 一度ファイナライズを実行したディスクでも、再びイニシャライズすれば、画像の追加書き込みができます。本機でファイナライズした場合は、自動的にイニシャライズが行われます。追加した画像をCD-ROMドライブで再生するには、もう一度ファイナライズする必要があります。ただし、ファイナライズを実行するたびにディスク容量が約13MBずつ減るので、まとめてファイナライズすることをおすすめします。
- ディスクをファイナライズしないで本機から取り出しても、後でファイナライズすることができます。
- ファイナライズされたディスクをCD-ROMドライブで見える場合は、CD-ROMドライブがマルチリード(MultiRead)に対応している必要があります。



➔ ファイナライズしたいディスクを入れる。モードダイヤルを「SET UP」にして、電源を入れる

SET UP画面が表示されます。

- ファイナライズの途中で電源が切れないようにするために、ACアダプターのご使用をおすすめします。

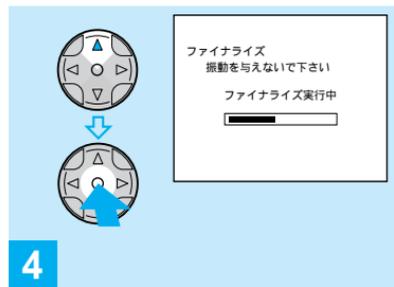


➔ コントロールボタンの▲/▼で [●] (ディスクツール1) を選び▶を押し、▲で[ファイナライズ]を選び、▶を押す



3 → コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す

「ファイナライズ 安定した所に置いてください」と表示されます。



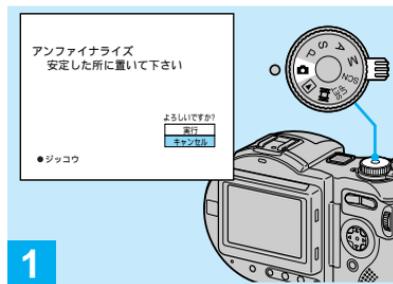
4 → もう一度コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す

「ファイナライズ実行中」という表示が消えると、ファイナライズが完了します。ディスクがファイナライズされ、ディスク残量表示が①から②に、または③から④に変わります。ファイナライズの実行には時間がかかる場合があります。実行中は本機に振動を与えないでください。

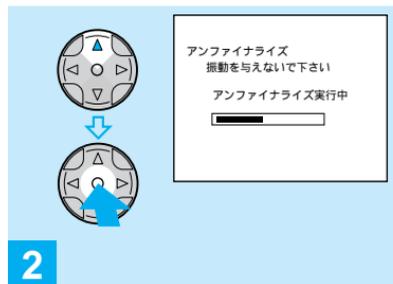
ファイナライズを中止するには手順**3**または**4**で、コントロールボタンの▼で[キャンセル]を選び、中央の●を押してください。ファイナライズが始まると、中止することはできません。



ファイナライズを取り消す—アンファイナライズ(CD-RWのみ)



→ アンファイナライズしたいディスクを入れ、モードダイヤルを「CAM」にする



→ コントロールボタンの▲で[実行]を選び、中央の●を押す

「アンファイナライズ 安定した所に置いてください」と表示されます。

- モードダイヤルを「P」, 「S」, 「A」, 「M」, 「SCN」, 「」の位置にしても操作できます。
- CD-RWを使用しているときは、直前に実行したファイナライズを取り消すことができます(アンファイナライズ)。ファイナライズを取り消すと、ファイナライズの実行で使用したディスク容量を元に戻すことができます。

「アンファイナライズ実行中」という表示が消えると、アンファイナライズが完了します。

ディスクがアンファイナライズされ、ディスク残量表示がからに変わります。

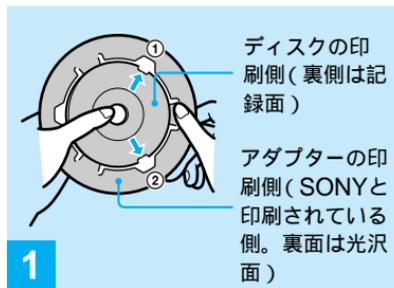
アンファイナライズの実行には時間がかかる場合があります。実行中は本機に振動を与えないでください。

アンファイナライズを中止するにはコントロールボタンの▼で[キャンセル]を選び、中央の●を押してください。

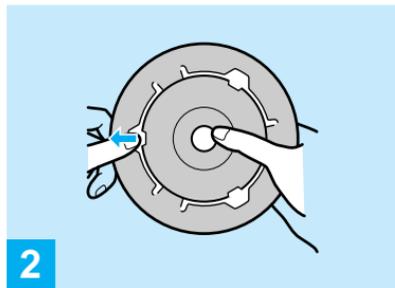
一度中止した後にアンファイナライズするにはモードダイヤルを「SET UP」にして、 [ディスクツール1]の[アンファイナライズ]を実行してください(別冊応用編→76ページ)。

- ファイナライズ実行後、画像を編集したり新しい画像を記録したりすると、アンファイナライズは実行できません。

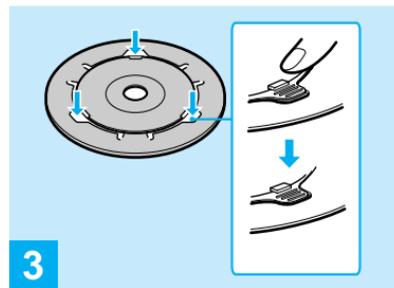
② 付属の8cm CDアダプターについて



→ ①、②の順でアダプターの2つのツメにディスクを差し込む



→ 3つめのツメを外側に引いて、ディスクをはめる



→ ディスクがツメの溝に正しくはまってツメがすべて平らになっていることと、ディスクがアダプターから浮いていないことを確認する

CD-ROMドライブが8cm CDに対応していないときには、付属の8cm CDアダプターを使用してください。

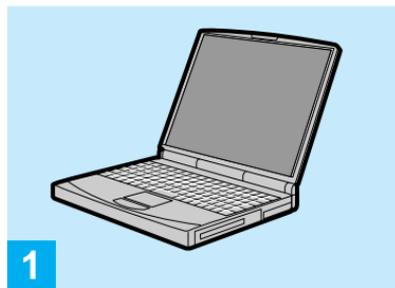
- ドライブによっては付属の8cm CDアダプターがご使用になれない場合があります。ドライブの取扱説明書をご覧ください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、高温の場所へは放置しないでください。
- このアダプターはマヒカディスク専用です。他の8cm CD-R/CD-RWにはご使用になれません。

- ツメが浮いていると動作しなかったり、異音が発生したりすることがあります。

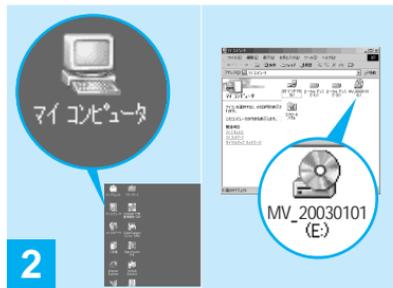


③ 画像をパソコンのCD-ROMドライブで見る

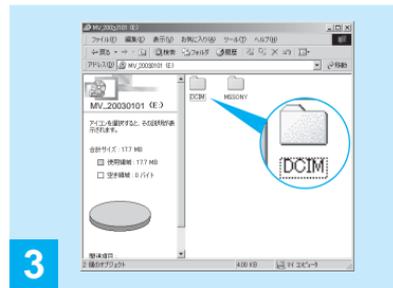
98 2000 XP
98SE Me



→ パソコンを起動し、ファイナライズしたディスクをパソコンのCD-ROMドライブに入れる



→ [マイコンピュータ]を開き、ディスクを入れたドライブ (例:[MV_20030101 (E:)])をダブルクリックする



→ [DCIM]をダブルクリックする

「DCIM」フォルダの内容が表示されます。

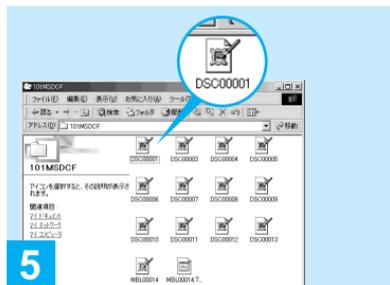
- CD-RWの画像をCD-ROMドライブで見る場合は、ドライブがマルチリード (MultiRead) に対応している必要があります。お手持ちのドライブがマルチリードに対応しているかどうかはドライブのメーカーにお問い合わせください。
- ここではMicrosoft Windows Meの画面を使って説明します。OSの種類によって、画面表示や操作方法が異なることがあります。

- 「ImageMixer Ver.1.5 for Sony」をつかってパソコン上で画像を見ることができます。詳しくは(別冊応用編→ 49ページ)をご覧ください。



4 → 見たい画像ファイルの
入っているフォルダをダブル
クリックする

フォルダの内容が表示されます。



5 → 見たい画像ファイルをダブル
クリックする

ファイルが開きます。

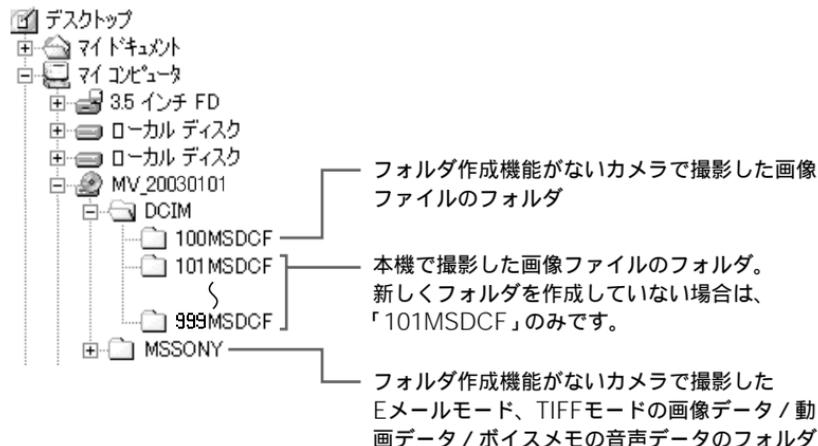
- パソコンのハードディスクにコピーして
から再生することをおすすめします。
ディスクから直接再生すると、画像や音
声がとぎれることがあります。



画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、デスク内のフォルダにまとめられています。

Windows Meで見たときの例



- 「100MSDCF」または「MSSONY」のフォルダには本機で画像を記録できません。再生のみ可能です。
- フォルダについては、別冊応用編 ➡ 6ページをご覧ください。



フォルダ名	ファイル名	ファイルの内容
101MSDCF } 999MSDCF	DSC0 .JPG	<ul style="list-style-type: none"> • 以下のモードで撮影した静止画ファイル <ul style="list-style-type: none"> - 通常撮影モード - ブラケットモード(別冊応用編 → 19ページ) - 3枚連写モード(別冊応用編 → 24ページ) • マルチ連写で撮影した静止画ファイル(別冊応用編 → 23ページ) • 以下のモードで同時に撮影した静止画ファイル <ul style="list-style-type: none"> - Eメールモード(別冊応用編 → 25ページ) - TIFFモード(別冊応用編 → 25ページ) - ボイスメモモード(別冊応用編 → 26ページ)
	DSC0 .JPE	• Eメールモードで撮影した、通常よりサイズの小さい画像ファイル。
	DSC0 .MPG	• ボイスメモモードで撮影した音声つきファイル(別冊応用編 → 26ページ)。
	DSC0 .TIF	• TIFFモードで撮影した、非圧縮(TIFF)画像ファイル(別冊応用編 → 25ページ)
	CLP0 .GIF	• クリップモーションのノーマルモードで撮影した画像ファイル(別冊応用編 → 22ページ)
	CLP0 .THM	• クリップモーションのノーマルモードで撮影したとき、同時に撮影されるインデックス画像ファイル
	MBL0 .GIF	• クリップモーションのモバイルモードで撮影した画像ファイル(別冊応用編 → 22ページ)
	MBL0 .THM	• クリップモーションのモバイルモードで撮影したとき、同時に撮影されるインデックス画像ファイル
	MOV0 .MPG	• MPEGムービーモードで撮影した動画ファイル(別冊応用編 → 44ページ)

- には0001から9999までの数字が入ります。
- 下記のファイルの数字部分は同じになります。
 - Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイルとその画像ファイル
 - ボイスメモモードで撮影した音声ファイルとその画像ファイル
 - TIFFモードで撮影した非圧縮(TIFF)画像ファイルとその画像ファイル
 - クリップモーションで撮影した画像ファイルとそのインデックス画像ファイル



USB接続で画像をパソコンに取り込む

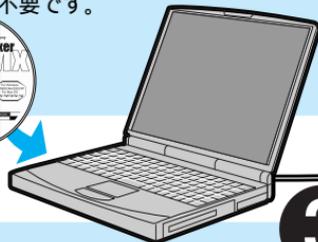
右記のような流れで、本機で撮影した画像をパソコンに取り込みます。

お使いのOSでの手順は

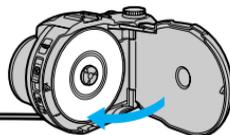
OSによって手順①が不要な場合があります。

OS	手順
Windows 98/ 98SE/2000/Me	手順①～⑤すべて (49、53、54、55、 60ページ)
Windows XP	手順②～⑤ (53、54、 58、60ページ)
Mac OS X (v10.0/v10.1/ v10.2)	61ページ

1 **PTP Manager**をインストールする(49ページ)
2回目以降、画像を取り込むときは不要です。



2 本機とパソコンを準備する(53ページ)



3

USBケーブルで接続する(54ページ)

4 画像ファイルをパソコンにコピーする(55ページ)

5 パソコンで画像を見る(60ページ)



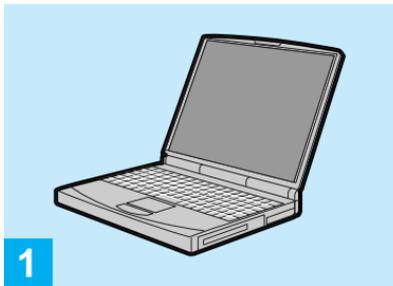
パソコンとの接続方法や最新サポート情報はデジタルイメージングカスタマーサポートのホームページをご覧ください。



<http://www.sony.co.jp/support-di/>

① PTP Managerをインストールする

98 2000
98SE Me

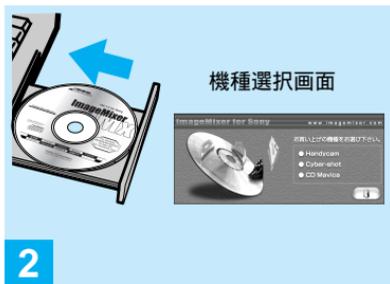


1

→ パソコンの電源を入れる

この時点では、本機をパソコンに接続しないでください。

- ここでは、Microsoft Windows Meの画面を使って説明します。OSの種類によって、画面表示や操作方法が異なることがあります。
- パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。
- Windows 2000をお使いのかたは、Administrator (管理者権限) でログオンしてください。



2

→ 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

機種選択画面が表示されます。機種選択画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の  (マイコンピュータ) →  (ImageMixer) の順にダブルクリックしてください。

- ディスプレイの設定を800×600ドット以上、High Color (16bitカラー、65000色) 以上にしてください。800×600ドット未満、256色以下ではインストールの機種選択画面が表示されません。



3

→ 「CD Mavica」の部分に  (ポインタ) を動かし、クリックする

インストールメニュー画面が表示されます。





4

→「PTP Manager USB Driver」の部分にマウス(ポインタ)を動かして、クリックする

「設定言語の選択」画面が表示されます。



5

→[▼]をクリックして「日本語」を選び、[OK]をクリックする

「PTP Manager用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

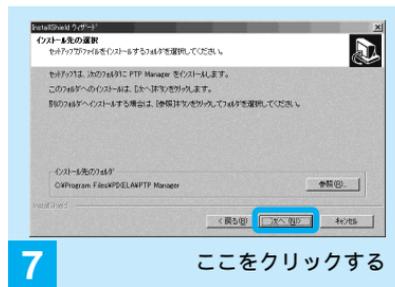


6

→[次へ >>]をクリックする

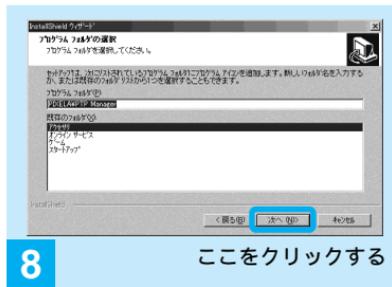
「インストール先の選択」画面が表示されます。

PTP Managerをインストールする(つづき)



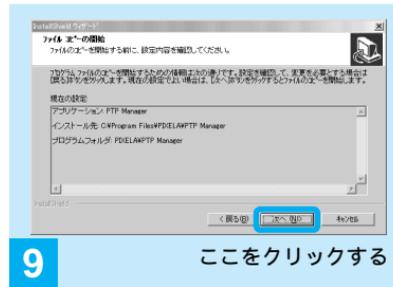
➔ インストール先を選んで[次へ]をクリックする

「プログラムフォルダの選択」画面が表示されます。



➔ プログラムフォルダを選んで[次へ]をクリックする

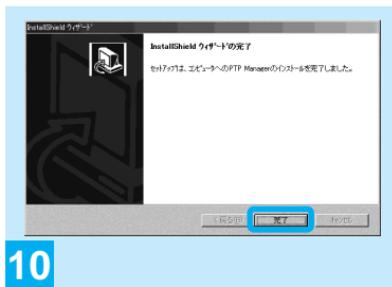
「ファイルコピーの開始」画面が表示されます。



➔ 設定を確認して、[次へ]をクリックする

PTP Managerのインストールが始まります。
インストールが終わると、
「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示されます。





10

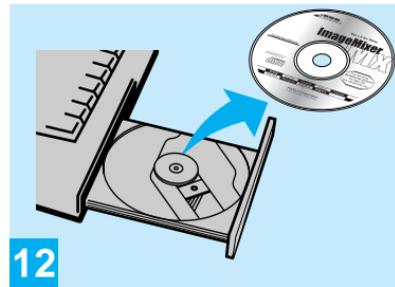
→ [完了]をクリックする



11

→ 「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選び、[完了]をクリックする

パソコンの電源が一度切れ、すぐに入ります(再起動)。



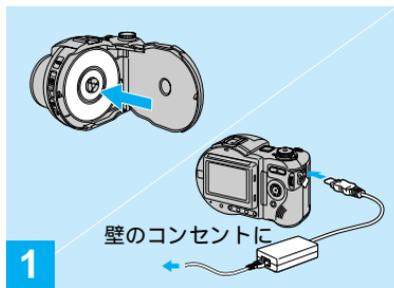
12

→ 再起動後にパソコンからCD-ROMを取り出す

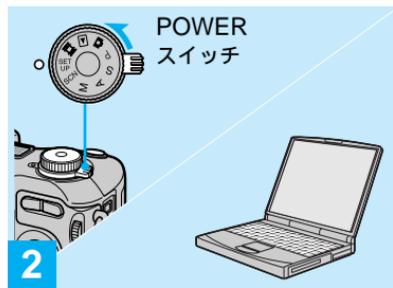
本機とパソコンでUSB接続ができるようになります。

② 本機とパソコンを準備する

98	2000	XP
98SE	Me	



- 本機に画像を記録したディスクを入れる。
本機とACアダプターをつなぎ、壁のコンセントにつなぐ



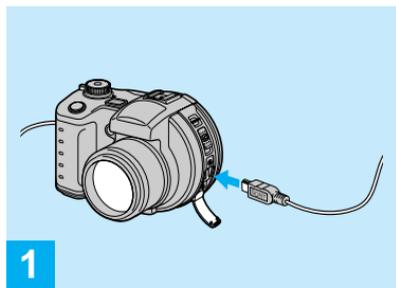
- 本機とパソコンの電源を入れる

- バッテリー - を使用して画像ファイルをコピーすると、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損する恐れがあります。ACアダプターのご使用をおすすめします。
- ACアダプターについては13ページをご覧ください。
- ディスクについては、17ページをご覧ください。



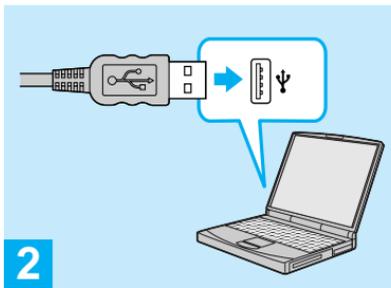
③ USBケーブルで接続する

98 2000 XP
98SE Me



1

→ 付属のUSBケーブルを
❖ (USB) 端子につなぐ



2

→ USBケーブルをパソコンの
USB端子につなぐ



3

アクセス表示*

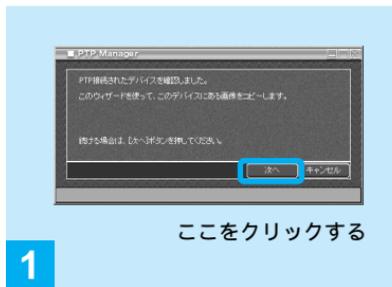
本機の液晶画面に「USBモード PTP」
と表示されます。

* 通信中はアクセス表示が赤色になりま
す。

- デスクトップ型パソコンをお使いの場合
は、パソコン後面にあるUSB端子のご使
用をおすすめします。
- Windows XPをお使いの場合は、パソコ
ンの画面に自動再生ウィザードが表示さ
れます。58ページにお進みください。

- ディスクの読み込みに時間がかかる場合
があります。

④ 画像ファイルをパソコンにコピーする 98 2000 98SE Me (XP 58~59ページ)



ここをクリックする

→ 54ページの手順でUSB接続を行うとPTP Managerが起動する。[次へ]をクリックする

コピーする画像の選択が表示されます。ディスクからの画像の読み込みに、若干時間がかかることがあります。



ここをクリックする

→ コピーする画像を選択して[次へ]をクリックする

コピー先、グループ名の設定画面が表示されます。



ここをクリックする

→ グループ名とコピー先のフォルダを指定して[次へ]をクリックする

画像のコピーが始まります。コピーが終了するとコピー終了のメッセージが表示されます。

- 選択している記録フォルダの画像が表示されます。
違うフォルダの画像をコピーしたいときは、別冊応用編→7ページの手順に従って記録フォルダを変更してください。

- ここでは、「マイドキュメント」というフォルダに画像をコピーします。





ここをクリックする

→「完了」をクリックする

エクスプローラが立ち上がってコピー先のフォルダが開きます。



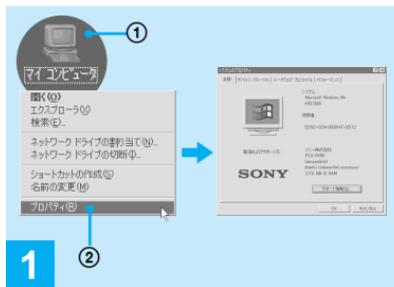
このフォルダ内にコピーされました。

! USBケーブルを抜く、USB接続中の本機からディスクを取り出す、または本機の電源を切るときは

Windows 98/98SE/2000/Meをお使いの場合は

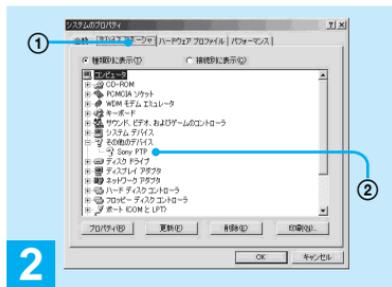
- 1 PTP Managerが開いているときは「キャンセル」などで閉じる。
- 2 パソコンのUSBケーブルを抜く、ディスクを取り出す、または本機の電源を切る。

PTP Managerが起動しないときは



→ [マイ コンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] をクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。



→ 別のデバイスが表示されていないか確認する

- ① [デバイスマネージャ] をクリックする。
- ② “”マークの付いた「 Sony PTP」がないか確認する。



→ 表示されていたら削除する

- ① 「 Sony PTP」をクリックする。
(Windows 2000をお使いの場合、
[Sony PTP]を右クリックしてください)。
- ② [削除] をクリックする。
「デバイス削除の確認」画面が表示されます。
- ③ [OK] をクリックする。
デバイスが削除されます。

- Windows 2000をお使いの方は、「システムのプロパティ」画面の「ハードウェア」タブをクリックしてください。

デバイスを削除したあと、付属のCD-ROMのPTP Managerをインストールし直してください(49ページ)。



④ 画像ファイルをパソコンにコピーする XP



→ 54ページの手順でUSB接続を行うと「スキャナとカメラウィザードの開始」画面が表示される。「次へ」をクリックする。

本機のディスクに記録されている画像が表示されます。

ディスクからの画像の読み込みに、若干時間がかかることがあります。



→ パソコンにコピーしない画像の をクリックして にし、「次へ」をクリックする

「画像の名前とコピー先」画面が表示されます。



→ 画像の名前とコピー先を指定し、「次へ」をクリックする

画像のコピーが始まります。コピーが終了すると、「そのほかのオプション」画面が表示されます。

• ここでは、「マイドキュメント」というフォルダに画像をコピーします。

④ 画像ファイルをパソコンにコピーする(つづき)



→ [作業を終了する]を選び、[次へ]をクリックする

「スキャナとカメラ ウィザードの完了」画面が表示されます。



→ [完了]をクリックする

ウィザード画面が閉じます。

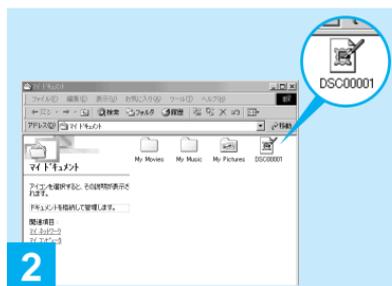


⑤ パソコンで画像を見る



→ デスクトップ画面上の[マイドキュメント]をダブルクリックする

「マイドキュメント」フォルダの内容が表示されます。



→ 見たい画像ファイルをダブルクリックする

画像が開きます。

- 55、58ページで、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーした場合の説明です。
- Windows XPをお使いの場合は、[スタート]→[マイドキュメント]をクリックしてください。



Macintoshをお使いの場合

USB接続で見る (Mac OS Xのみ)

Mac OS Xをお使いの方のみUSB接続で画像を見ることができます。

① 本機とパソコンを準備する

詳しくは、53ページをご覧ください。

② USBケーブルで接続する

詳しくは、54ページをご覧ください。

③ Image Captureで画像をコピーする

自動的にImage Captureが起動します。画面の指示に従って画像をコピーしてください。

- Mac OS X(v10.1/V10.2)をお使いの場合は、動画ファイルが転送できない場合があります。



数字の前に「応」がついているページは別冊応用編のページです。

ア行

赤目軽減	27
アクセスランプ	17
アドバンストアクセサリー シュー	応30
アンファイナライズ	42
イニシャライズ	18
インストール	49、応48
インデックス表示	32
インフォリチウム バッテリー	応82
液晶画面の明るさ調節	応77
液晶画面のオン/オフ	29
オート撮影	21
オートパワーオフ機能	14
オートフォーカス	23、応11
お知らせゼンザ	応77
お手入れ	応81

カ行

海外で使うとき	13
外部電源	13
回転	応35

書き込み確認	応29
画質	20、応6
画像サイズ	19、応44
画像再生	31、応32、応45
画像削除	34、応46
画像のファイル名	46
画像の保存先	46
近接(マクロ)撮影	25
クイックレビュー	23
クリップモーション	応22
警告表示	応65
結露	応80
コンティニュアスAF	応12
コントラスト	応71
コントロールボタン	14
コンバージョンレンズ	応76

サ行

再生ズーム	応33
彩度	応71
撮影	21、応44
撮影/再生可能 枚数	12、20、応68
撮影/再生可能 時間	12、応68
3枚連写	応24

残量表示	11
自己診断表示	応67
絞り優先モード	応9
シャープネス	応71
シャッタースピード 優先モード	応9
充電時間	11
充電方法	10
ジョグ再生	応37
シングル画面	31
シングルAF	応12
シーンセレクション	応27
スポット測光	応17
スポットAF	応11
ズーム撮影	24
スマートズーム	24
スライドショー	応34
静止画再生	31
静止画削除	34
静止画撮影	21
静止画取り込み	39
セルフタイマー	26
選択枠重点AF	応11
測光モード	応17

タ行

中央重点測光	応17
ディスク	17、応81
ディスクの入れかた	17
テレビで見る	33
電源の入/切	14
動画再生	応45
動画削除	応46
動画撮影	応44
トリミング	応34

ハ行

パソコンの画像取り込み	39、応48
バッテリーの充電時間	11
バッテリーの充電方法	10
バッテリーの使用時間	12
ピクチャーエフェクト	応28
ヒストグラム	応16
日付/時刻合わせ	15、応75
日付/時刻挿入	30
ビデオCD	応52
ファイナライズ	40
ファイル名	46
ファイル保存先	46
フォーカスプリセット	応14

フォーマット	37
フォルダ	応6、応32
ブラケット	応19
フラッシュ撮影	26、応30
フラッシュレベル	応21
プリント予約マーク	応41
プログラムオート撮影	22
プロテクト	応38
ボイスメモ	応26
ホットシュー	応76
ホログラフィックAF	27
ホワイトバランス	応20

マ行

マクロ撮影	25
マニュアル露出モード	応10
マルチパターン測光	応17
マルチポイントAF	応11
マルチ連写	応23、応36
メニュー	応4、応70
モードダイヤル	15、22
モニタリングAF	応12

ラ行

リサイズ	応40
露出補正	応15

アルファベット

ACアダプター	10、13
AE	21
AE/AFロック	応13
AF	21
AFモード	応11
A/V接続ケーブル	33
CD-ROM	49、応48
DCプラグ	10、13
DPOF	応41
Eメール	応25
EV補正	応15
GIF	47、応22
ImageMixer	応48
ISO	応71
JPG	47
MPEGムービー	応44
MPG	47
NRスローシャッター	応10
NTSC/PAL	応78
PTP Manager	49
RESETボタン	応54
SET UP	応4、応75
TIFF	47、応25
USB	54、61
VGA	20



お問い合わせ窓口のご案内

パソコンとの接続方法や
最新サポート情報

デジタルイメージングカスタ
マーサポート
[http://www.sony.co.jp/
support-di/](http://www.sony.co.jp/support-di/)

ご使用上での不明な点や技術的なご質問

テクニカルインフォメーションセンター
電話： 0564-62-4979
(電話のおかけ間違いにご注意ください。)
受付時間：月～金曜日 午前9時～午後5時
(ただし、年末、年始、祝日を除く)
お電話の前に以下の内容をご用意ください。
①本機の型名(本機底面をご覧ください。)
②本機の製造番号(本機底面をご覧ください。)

修理申し込み

製品の品質には万全を期して
おりますが、万一不具合が生
じた場合左記のテクニカルイ
ンフォメーションセンターへ
お電話ください。
お客様のお宅まで指定宅配便
で取りにおうかがいします。



この説明書は100%古紙再生紙とVOC
(揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキ
を使用しています。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

<http://www.sony.co.jp/>

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
<http://www.sony.co.jp/cyber-shot/>
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリ情報、
パソコン接続に関する情報を掲載しています。

